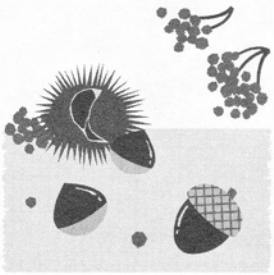
日本スポーツ心理学会認定

スポーツメンタルトレーニング指導士ニュースレター

Certified Mental Training Consultant in Sport

第9号

2011年9月



- 委員長挨拶 …… P. 1
- 研修会担当 …… P. 2
- 講習会担当 …… P. 3
- 倫理担当 …… P. 4
- 広報担当 …… P. 4
- 事務局からのお知らせ …… P. 5
- 23－25年度資格認定委員会委員 …… P. 6
- 収支決算 …… P. 7
- 編集後記 …… P. 8

委員長挨拶

岡　澤　祥　訓（奈良教育大学）

今年度からメンタルトレーニング指導士資格認定委員会の委員長を引き受けることになりました。私が委員長を受けたのは、これまで、JOCのメンタルマネージメントプロジェクトでメンタルトレーニングやメンタルサポートを行うチャンスを頂き、指導者や選手から多くのことを学ぶことができましたが、その成果をスポーツ心理学会にお返しできていないという思いがあるからです。卓球協会のサポートで一緒に活動した鈴木先生が、前委員長ということもあり、事務局はやってあげるから、委員長をやって欲しいといわれて、少しでもお役に立てるならと受けることにしました。

委員長を引き受けるにあたって、自分がやれることはなんだろうかと考えました。何もできないですが、名前だけというのも失礼な話なので、資格認定作業は当然のことですが、スポーツ競技の現場の要求を満たすことができるメンタルトレーニング指導士の育成に関してできることはやろうと考えました。

具体的な内容を検討してみるとメンタルトレーニング指導士会の活動範囲と区別できなくなりました。同じ内容の活動をすることも意味があると思いますが、協力してより効果的な活動ができることに、こしたことはありません。そこで、任期中にメンタルトレーニング指導士会との役割分担を話しあい、資格

認定委員会の活動範囲を確定させたいと考えています。

メンタルサポートの現場で活動させてもらった経験から、スポーツドクター、トレーナー、栄養士等のサポートスタッフとの連携、監督、コーチ等の指導者との連携を取ることが必要だと感じます。資格認定にサポート担当者からの具体的な評価をいれることを提案できないかと考えましたが、メンタルトレーニング指導士の資格を認定される前にこのようなスタッフがいるチームで活動することは困難なことだと思います。そこでメンタル以外のサポートスタッフを講師にした研修を行えるようにしたいと思います。医学や栄養、身体的なコンディショニングの講義ではなく、その立場からメンタルトレーニング指導士に何が必要なのかを講義してもらいたいと思います。そのことが出来るサポートスタッフを育成することも重要な課題であると思います。この課題は時間がかかると思いますので、可能な限りの準備を行い、次の委員長に継続してもらって、実現できればと考えています。

簡単に出来ない課題だと思いますが、チャレンジだけはしたいと思います。

研修会担当

今後の研修会について

立　谷　泰　久（国立スポーツ科学センター）

SMT資格認定委員会の研修会の担当をさせて頂いている立谷泰久です。現在、2期目を仰せつかっております。1期目はよく分からない中、周りの先生方のご指導を仰ぎながら、何とか行うことができました。2期目においても、伊藤先生（九州共立大）と鶴原先生（三重大学）にご指導頂きながら、精一杯やっていく所存です。

我々研修会担当は、研修会が行われる数ヶ月前から、「受講される皆さんにとって有意義な研修会は何か？」という視点で、議論を重ね、その内容を決定しております。内容が第一ですが、当日の運営がスムーズにいくことにも注意を払っております。できる限りのことを行っているつもりですが、これまで至らなかった点が多々あったかと思います。この場をお借りしてお詫び申し上げます。ただ、幸いなことに、研修会終了時に頂く皆さんからのアンケートでは、おおむね良い評価を頂いております。こちらのアンケートについては、今後も忌憚のないご意見を頂ければと思います。また、我々も人手や時間のない中、できる限りのことを行っておりますので、その点もご理解頂ければ幸いです。

今後の研修会についてですが、午前の全体講演では、スポーツ心理学関係以外の様々な分野の先生にお願いしていこうと思っております。「SMT指導士に何が必要なのか？」を基軸に、普段ではなかなか聞けない話（講演）を皆さんに提供できるように、分野や内容を考え、素晴らしい先生をお呼びしたいと思っております。また、午後のセッションは、「事例検討会（有資格者のみ）」と「それ以外（今年は『見立て』がテーマ）」に分けて行っていますが、こちらも、皆さんにとって有意義になるものを提供していくつもりです。

ちょっと話が変わりますが、先日、日本心理医療諸学会連合（The Japanese Union of Association for Psychomedical Therapy: UPM）第24回学術大会に参加してきました。この中で、「事例から学ぶ、見立てと治療」というテーマで症例検討会が行われました。ある一事例に対し、「認知行動療法」「交流分

析」「自律訓練法」「精神医学」というそれぞれの専門をお持ちの4名の先生方が、それぞれの立場から「どのように見立て、治療するのか」ということについてコメントされるという実におもしろい取り組みがなされていました。共通する部分とそうでない部分があり、非常に興味深く、大変勉強になりました。

このような研修会が行われる背景には、UPM第一回大会を主催された日本交流分析学会元理事長の故桂戴作先生のお言葉があります。「他を認め、己との差を知り、己も主張するが他の主張も受容し自分に生かそうとする在り方は、心理療法家としての大事な要素である」と述べられています。さらに24回大会会長の松野俊夫先生は、「心理療法や心身医学的な治療法には様々な理論や立場がありますが、根底の部分では共通した概念や理念が流れていることがよく分かり、UPMの特色である学際的な意味を実感することができます」と本大会のプログラムの中で述べられています。お二人の先生のお言葉は、我々のSMTの分野にもまさに当てはまると深く考えさせられ、このお言葉に出会えただけでもこの学術大会に参加した意義があったとさえ思っております。

これからも、皆さんが「受講して良かった！」という研修会を資格認定委員の先生方と協力しながら行っていく所存です。そのためには、皆さんのご協力が必要ですので、今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

講習会担当

スポーツメンタルトレーニング指導士・資格取得講習会の内容と進め方について

関　矢　寛　史（広島大学）

資格認定委員会において、昨年度から資格取得講習会の見直しについての提案がなされてきました。そして今年の5月に開催された資格認定委員会において、これまでの資格取得講習会の内容と進め方について議論がなされた結果、下記の点に留意して今年度の講習会を開催することとしました。

1．受講者、講師を含めた討論を増やし、受講者の資質を評価する最終関門としての機能を強化する。教本の内容を講師が一方的に説明するのではなく、スポーツメンタルトレーニング教本、倫理綱領、倫理規定を読んで来ることを事前学習課題として、講師があらかじめ用意する基幹質問項目を中心に、討論を通して理解を深める。（下記セッションⅠ～Ⅳ）

2．倫理についてのセッションを設ける。倫理規定等が完成したので、具体的な事例の紹介も含めて倫理について考える場とする。（下記セッションⅠ）

3．多様な実践例について討論し、実践研究の対象として心理サポートを行う場合の注意点についても認識を深める。（セッションⅣ）

4．資格取得後に資質向上のために研修を積む場について紹介するセッションを新たに設ける。資格認定委員会が主催する研修会、指導士会が主催する全国フォーラムや支部フォーラムなどに加えて、海外の学会における研修会や国内の関連学会の研修会についても紹介する。（セッションⅤ）

今年度の資格取得講習会の内容

Ⅰ．スポーツメンタルトレーニング指導士の役割と倫理（教本第1章，倫理綱領・倫理規則）

Ⅱ．メンタルトレーニングの展開と評価（教本第２，３章）
Ⅲ．メンタルトレーニング技法（教本第４，５章）
Ⅳ．メンタルトレーニングの実践例と実践研究の方法（教本第６章）
Ⅴ．資格取得者の資質向上（国内外の関連学会・研修会等の紹介を含む）

なお、講習会の内容や進め方は受講者や講師からのフィードバックを得て毎年評価、検討し有意義なものにしていきたいと思っています。よろしくお願いします。

倫理担当

倫理規定の制度化について

阿　江　美恵子（東京女子体育大学）

メンタルトレーニング指導士の仕事は人間の行為ですから、ときには思わぬ誤解や、相手を傷つける可能性も出てきます。そのため、資格認定委員会ではメンタルトレーニング指導士の倫理規定を明確にし、そこに罰則も盛り込む予定でおります。

資格制定から10年以上たちますが、幸い大きな問題は起きておりません。しかし、資格をお持ちの方には、スポーツ選手たちの人権に十分配慮した指導を切にお願い致します。昨今、研究者に厳しい研究倫理が要求されています。指導者という立場に慣れてしまうと、相手の人権への意識が薄れる恐れがありますので、指導士の立場を常に意識し、相手を尊重して指導に当たって頂けたらと思います。

倫理担当としては、規定を定めて仕事を終わりにしたいのですが、危ない事例などを収集して、倫理的な問題を未然に防ぐ情報を発信していけたらと考えております。

広報担当

これからの活動の方向性について

米　川　直　樹（三重大学）

広報は、従来からニュースレターを会員に送付することを主な活動として進めてきています。このニュースレターの配布先は、スポーツ心理学会会員に対して行われています。また、その中身については、スポーツ現場で実践しているSMT指導士の方々の奮闘、新規に取得されたSMT指導士の方々の抱負、などの内容が掲載されてきたかと思います。この広報の仕方やニュースレターの中身について検討し、SMT指導士が広くスポーツ選手やスポーツ関係者に認知され、SMT指導士の方々が思う存分活動出来るように広報の方法を考えていきたいと思います。

今年度中に広報の在り方、ニュースレターの配布先や配布時期、ニュースレターの編集について検討していきたいと思いますので、ご意見やご提案を頂ければ幸甚です。

事務局

お知らせ

鈴　木　　壯（岐阜大学）

昨年度までは委員長が事務局担当を兼任していましたが、不都合なことが多かったため、今年度の委員会から事務局担当を別に設け、最初なので前委員長の鈴木が担当することとしました。委員会の活動や研修会等を円滑に進めることができるようにできるだけのことをしたいと思っています。大きな課題として資格の名称変更がありますが、適切な名称になるように検討したいと思っています。

以下に、事務局からのお知らせを示します。

① 資格認定者数：４月現在で122名。新規資格取得者４名、更新者20名、移行者２名。

② 23年度スポーツメンタルトレーニング指導士研修会、及び資格取得講習会のプログラム：

・ＳＭＴ指導士研修会（10月８日：日本大学文理学部）

10：30～10：40　挨拶：資格認定委員会委員長

10：40～12：30　研修１

「より効果的な心理援助と東洋的な行について－「行」としての臨床心理的なアプローチ」

講師：森山敏文

（広尾心理臨床相談室、臨床心理士）

13：45～16：15　研修２（２会場）

・研修２－Ａ（有資格者のみ）：事例検討会

事例提供者：未定（公募）

指定討論者：岡澤祥訓（奈良教育大学）

司　会：鶴原清志（三重大学）

・研修２－Ｂ：「見立ての方法」

講　師：鈴木　壯（岐阜大学）

司　会：伊藤友記（九州共立大学）

16：15～　修了式及び受講証明書配布（研修会アンケートと引換）

・SMT指導士資格取得講習会（10月８日：日本大学文理学部）

10：30～10：40　挨拶：阿江美恵子

Ⅰ．**10：40～11：30**　スポーツメンタルトレーニング指導士の役割と倫理（教本第１章，倫理綱領・倫理規則）

講　師：岡澤祥訓（奈良教育大学）

Ⅱ．**11：40～12：30**　資格取得者の資質向上（国内外の関連学会・研修会等の紹介）

講　師：鈴木壯（岐阜大学）

Ⅲ．**13：30～14：20**　メンタルトレーニングの展開と評価（教本第２，３章）

講　師：吉澤洋二（名古屋経済大学）

Ⅳ．**14：30～15：20**　メンタルトレーニング技法（教本第４，５章）

講　師：立谷泰久（国立スポーツ科学センター）

Ⅴ．**15：30～16：20**　メンタルトレーニングの実践例と実践研究の方法（教本第６章）

講　師：関矢寛史（広島大学）

③ スポーツメンタルトレーニング指導士資格に関わる文書：資格取得の手引き、規約等の文書、必要書類等は、今年度からスポーツ心理学会のHP上に掲載しました。必要書類はそこでダウンロードしてください。今後、資格認定委員会からのお知らせはHP上に随時掲載します。

「指導士」と「指導士補」の名称の変更：名称変更について検討中です。適切な案がありましたらご連絡ください。

資格更新・移行：資格の有効期限が平成24年３月31日までの方、有効期間を１年間猶予された方は更新・移行手続き期間は本

年11月～12月です。HPの「資格・更新」に必要書類の電子ファイルがありますので、ダウンロードしてお使いください。

④今年度の主な事業予定

- ４月１日～６月30日：指導士補申請書類の受付
- ５月：第１回資格認定委員会；新委員の役割の確認、今後の計画の検討
- ９月：ニュースレター（９号）の発行
- 10月８日：指導士研修会、資格取得講習会（日本大学文理学部）
- 11月～12月末日：資格更新・移行手続き
- 11月：スーパービジョンの案内
- ３月：第２回資格認定委員会；資格取得申請者の合否判定、更新・移行者の合否判定。認定証・認定カードの発行。名簿の修正・追加。

23－25年度資格認定委員会委員

委員長：
岡　澤　祥　訓（奈良教育大学）
副委員長（広報・倫理）：
阿　江　美恵子（東京女子体育大学）
副委員長（事務局）：
鈴　木　　壮（岐阜大学）
研修会担当：
伊　藤　友　記（九州共立大学）
研修会担当：
立　谷　泰　久（国立スポーツ科学センター）
研修会担当：
鶴　原　清　志（三重大学）
講習会担当：
関　矢　寛　史（広島大学）
講習会担当：
荒　井　弘　和（法政大学）
広報担当：
遠　藤　俊　郎（大東文化大学）
広報担当：
米　川　直　樹（三重大学）
倫理担当：
吉　澤　洋　二（名古屋経済大学）
会計監査：
山　本　裕　二（名古屋大学）
会計監査：
岸　　順　治（岐阜経済大学）
学会推薦（会長）：
石　井　源　信（東京工業大学）
学会推薦（理事長）：
中　込　四　郎（筑波大学）

平成22年度スポーツメンタルトレーニング指導士資格認定委員会収支決算

収 入	
1．新規資格認定審査料等　（4名）	80,000
2．申請資格の手引き　（9冊）	18,000
3．新規登録料　（30,000 × 6）	180,000
4．更新登録料　（10,000 ×13、30,000 × 7）	340,000
5．認定研修会（11/19：福山） （3,000×51、4,000× 23、5,000×22）	355,000
6．スポーツメンタルトレーニング教本印税	249,480
7．10周年記念行事残金	458,307
8．その他（利子等）	23,530
収入小計	1,704,317
前年度繰越金	1,500,366
収入合計	3,204,683

支 出	
1．資格認定委員会　旅費及び会議費（2回）	371,320
2．認定研修会（11/19：福山）　講師謝金、旅費、事務経費等	170,160
3．資格取得講習会（11/19：福山）　講師謝金、テキスト代	118,480
4．スーパービジョン料　（5,000×4＋送料）	20,420
5．ニュースレター　印刷代等	212,970
6．認定カード作成、認定証作成	79,375
7．指導士活用ガイドブック編集、買い取り、郵送等	840,000
8．10周年記念行事未清算分	153,810
9．10周年記念行事報告書作成アルバイト代	50,000
10．事務局経費	124,317
支出小計	2,140,852
11．記念事業準備金	200,000
12．次年度繰越金	863,831
支出合計	3,204,683

＜会計監査報告＞

スポーツ心理学会資格認定委員会の会計監査を行い，領収書等のすべての会計書類を照合した結果，決算報告書通り，相違なきことを認めます．

平成23年 8月 20日

監査　山本裕二

監査　岸順治

編集後記

スポーツメンタルトレーニング指導士の情報紙である「ニュースレター」の第９号が無事発刊出来ました。

今年度から新体制でのスタートとなったことから、研修、講習、倫理、広報の４つの部門がありますので、この部門における担当の委員から今後の計画や抱負などを語って頂きました。多忙の中、原稿を賜った委員各位に御礼申し上げます。

さて、資格認定制度が2000年に発足し、今年で12年目になります。今までは資格認定制度の充実の期間であったり、スポーツメンタルトレーニング指導士の養成の期間であったかと思います。これからは、スポーツメンタルトレーニング指導士が成長、成熟期に向かう大切な時期に来ているのではないかと思います。このような情勢の中、皆様から研修、講習、倫理、広報についてのご意見、ご助言を戴きますようお願い致します。

広報担当：阿　江　美恵子（東京女子体育大学）
遠　藤　俊　郎（大東文化大学）
米　川　直　樹（三重大学）

日本スポーツ心理学会認定
スポーツメンタルトレーニング指導士

ニュースレター　第９号
2011年（平成23年）９月１日発行

編集・発行
日本スポーツ心理学会
スポーツメンタルトレーニング指導士資格認定委員会

事務局
〒501-1193　岐阜市柳戸１－１　岐阜大学　教育学部　鈴木研究室
鈴木壯

TEL＆FAX：058-293-2292　E-mail：suzumasa@gifu-u.ac.jp

郵便振替振込口座　口座番号　00800-8-120103
口座名称　日本スポーツ心理学会資格認定委員会